

記念物  
【特別天然記念物】アホウドリ  
*Phoebastria albatrus*指定年月日／1965（昭和 40）年 5 月 10 日  
所在地／地域を定めず指定

撮影：長谷川博（東邦大学）

アホウドリは全長約 85～100 cm、翼開長 190～240 cm、体重 6～7 kg にも達する北太平洋で最大の海鳥である。洋上をグライダーのようにほとんど羽ばたく事なく滑空するが、飛び立つ際には風上に向かって助走するか、斜面を駆け下りないと飛び立てない。

捕食者のいない島で繁殖していたため、人間に対して全く警戒心がなく、たやすく捕獲されるため、「アホウドリ」と呼ばれるようになった。明治中期以降は羽毛採取の対象となり、伊豆諸島鳥島や尖閣諸島で大量に捕獲された。鳥島では、少なくとも 500 万羽が捕獲されたと言われ、一時は絶滅したとされていたが、1951（昭和 26）年に鳥島で繁殖が確認された。一方、尖閣諸島のアホウドリも乱獲により絶滅したとされていたが、1971（昭和 46）年に南小島で 12 羽が確認され、1988（昭和 63）年にはヒナの生育が観察され、繁殖が確認された。

鳥島では、1981（昭和 56）年に営巣地（コロニー）の修復、1992（平成 4）年には崩落の危険性が少ない斜面に模型（デコイ）を設置し、鳴き声を流す事で新営巣地を形成する試みがなされ、積極的保護計画が実行された。近年では順調に個体数を増やしているが、鳥島は活火山のため、新たに小笠原諸島聳島に営巣地を形成する取組が行われている。

記念物  
【特別天然記念物】カムリワシ  
*Spilomis cheela*指定年月日／1977（昭和 52）年 3 月 15 日  
所在地／地域を定めず指定

撮影：渡辺賢一

カムリワシは沖縄県内に生息するワシタカ類のうちでは最大の野鳥で、全長 55 cm にもなり、頭頂部から長い羽毛（冠羽）が生えていることから「カムリワシ」の名が付けられた。鋭く尖った鉤状のくちばし、目の周囲は黄色でふちどり、白と茶の斑点模様の入った腹面のほかは全体に茶褐色で、尾は白色の地に黒い帯が 2 本通ったまだら模様をしている。

せわしく獲物を探し回ることせず、高い木の梢や電柱の先端などに止まって、獲物が動き出すのをじっと待っているさまは、いかにも猛禽類らしい風格をしている。獲物はネズミ、トカゲ、カエル、カニなどで、へびや小鳥を襲うこともある。観察しやすい期間は 10 月～3 月頃で、水田や小川付近の木で見かけることがある。2 月の繁殖期の晴れた日など、両翼を V 字形にして上空を旋回しながら「フィッフィッフィッフィッ」「ホイヨー」と、かん高い声で鳴いている姿を目

にすることができる。1977（昭和 52）年に石垣市の市鳥に選定され、代表的な民謡「鷲ぬ鳥節」のモデルにもなっている馴染みの深い鳥だが、近年はロードキルによる被害も増加しており、大切に保護していかなければならない。